

営農活動組織と地区住民が協力した広域柵の設置計画

栗原市一迫川北地区

地区の概要



イノシシ

- ・戸数は43戸。
- ・多面的機能支払交付金の活動組織は70名程度。
- ・主な農作物は水稻。
- ・地区内に狩猟免許所持者がいないため、わなの設置や管理は地区外の実施隊員に頼っている。
- ・取組主体は、川北水利組合、グリーン川北。

取り組み前の状況

● 環境

- ・迫川の北側に広がる、ほぼ平坦で見通しが良い圃場地帯。山側も川側も、ほとんどは圃場とはっきり分かれた環境だが、地区の中央部に、敷地内が藪化した空き家が複数みられた。イノシシの生息環境になる可能性があるため、特に広域での設置を進める場合には、ここの対策も合わせて考える必要がある。
- ・地区の西側は耕作地が少なくなるため、対策を分けて考える方法も考えられる。
- ・山際には、全域的に用水路が流れている。



平坦な圃場地帯



山際を流れる用水路



藪化した空き家

● 被害と対策

- ・山側、川側ともに、水稻被害や周辺の掘り起こし被害などが発生していた。
- ・圃場ごとに、電気柵やネット柵などが設置されていた。
- ・山際の用水路には、ネット柵や忌避剤が設置されていた。このイメージでワイヤーメッシュ柵を設置することで、被害を防ぐことができると考えていた。



イノシシによる掘り起こし被害



用水路沿いのネット柵



電気柵

取り組み内容

ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- ・生態や対策の基本などについての座学研修を開催。
- ・初めは、山側のみを対策すれば防げると考えていたが、複数の対策イメージを示したことで、川側も対策する必要があることが共有された。そのため、営農活動組織以外の住民との協力も検討することに。



提案した対策イメージ案

最初に複数の対策案を示すことによって対策のイメージが共有しやすくなる！

集落点検

ワークショップ② 集落点検マップ作成と対策案の検討

- ・被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するため、集落内を点検。
- ・現地で記録した情報を地図に落とし込み、現状を共有した。

集落点検前に設置イメージを共有しておくことで、集落点検と設置ルート検討が同時にできる！



設置ルート検討の様子



作成した集落点検マップ

ワークショップ③ 対策計画の作成

- ・ワイヤーメッシュ柵で集落全体を囲うように、合計11km以上の設置計画となった。
- ・距離の問題と地区中央部の合意形成のため、令和5年度と6年度の2ヶ年で設置する計画に。



全体計画図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）

成果と取り組みのポイント

❖ 山際の用水路の活用

ワイヤーメッシュ柵を用水路沿いに設置することで、弱点である地際からの侵入を防ぐことができ、これによって、イノシシによる侵入は基本的になくなる。さらに、ワイヤーメッシュ柵と用水路の維持管理を同時に行うことができるため省力化が期待できる。

❖ 集落点検マップの作成が協力体制構築のきっかけに

当初は、営農活動組織のみで山側に設置することで被害を防ぐことができると考えていたが、集落点検によって川側も出没する可能性があることや、藪化した一帯の環境整備など、集落全体で対策を考える必要があることが見えるようになった。